



進路だより 一步一步

23号

2018年12月25日(火)

西原東中学校進路担当

卒業生がおくる応援メッセージ パート3

浦添高校（普通科）1年 吉田 ^{かいと}海人 先輩

浦添高校には普通科があり、応用クラスと普通クラスに分かれています。応用クラスは普通クラスとは違い、早朝講座や夏期講座があり、より高いレベルの大学を目指すことができます。普通クラスでも、応用クラスと学ぶ内容に大きな違いはないので、普通クラスからでも大学に進学できます。

浦添高校の行事は、1年生歓迎球技大会、きら星祭、筋肉祭などたくさんの行事があり、1年中楽しめます。部活動でも中学校の頃にはなかった弓道やダンス部、他にもクイズ研究会などがあり、自分にあった部活動をする事で高校生活をもっと楽しむことができますと思います。

僕の通学方法は、両親の仕事が休みの日は送迎をしてもらいます。両親が仕事の日には346番で首里駅まで行き、モノレールで首里駅から古島駅に行き、古島駅から学校まで徒歩です。雨の日は道が混むので、いつもより早いバスに乗っています。

なぜ浦添高校に決めたかということ、大学進学率が高く、部活動も盛んで、高校生活を楽しみながら大学進学できると思ったからです。内申が低くて、最初は違う高校にしようと考えていましたが、学習内容のレベルが高く、しかも、体育祭と文化祭が一年に両方もある学校は浦添高校しかないと思い浦添高校に決めました。両親も最初は反対していましたが、勉強を頑張っているうちに背中を押してくれました。

僕の勉強方法は、過去問をひたすら解き、入試の問題傾向に慣れ、わからないところがあれば、塾の先生や学校の先生に解き方を教えてもらっていました。勉強が辛いと思ったときは、運動などをして体を動かしていました。

今だから言えることは、内申が低くて悩んでいる人もいますが、内申は3年間の積み重ねなので、今すぐに大きく上がるわけではありません。内申が低いなら低いなりに、今から入試当日まで必死に勉強し、入試の点数をしっかりとれば受かるので、これからが本当の勝負だと思います。進学先が決まった人は、高校から春休みの宿題が出されるので、その宿題を一番先に終わらせて、春休み明けにある実力テストに向けて準備を整えていき、幸しい学校生活をスタートして行ってほしいと思います。

受験はこれからが本当の勝負なので、まだまだ諦めないで、入試の点数を今よりもっと取れるよう頑張してほしいと思います。最後に、入学する前のイメージと違ったことは、浦添高校は大学進学率は高くなっていると聞いていたので、先生達や先輩方も厳しいのかと思っていたけど、実際は先生達もノリがよくて、先輩達もみんなおもしろくて、今は毎日楽しいです。

31期生のみなさん、合格目指して頑張ってください。

知念高校（普通科）1年 亀山 ^{ゆあ}結愛 先輩

知念高校は、8クラス中、2クラスは応用クラスになっています。応用クラスには、学年で80名しか入ることができません。1年の応用クラスの場合、一般入試の結果から上位80名が応用クラスに選ばれます。2年、3年生は、定期的に行われるテストや実力テストの結果で応用クラスが選ばれます。応用クラスは普通クラスと違い、早朝講座、夏期講習、模擬試験などがあり、勉強量は多くなりますが、より集中できる環境で学ぶことができますので、大学進学でよりレベルの高い大学を目指すことができます。普通クラスでも、応用クラスと学ぶ教科や種類は同じなので十分に学ぶことができます。

知念高校の行事は、1年生を歓迎するスポーツレク大会、団を結成して男女ペアで踊る親睦運動会、2年に1回体育祭か知高祭があり、今年は知高祭がありました。また、ビーチでの遠足、ミス・ミスターを決める卒業カウントフェスタといったたくさんの行事があり、行事が多い高校ベスト3に入っています。

知念高校の部活動は、文化系が8、体育系が17あります。文化系にはJRC、放送部、写

真部、体育系にはヨットやカヌー、弓道、ダンス部があり、部活動も盛んで充実しています。私の通学方法は、自宅から車で20分くらいなので、両親に送り迎えをしてもらっています。部活がある日は6時半、朝練がない日は8時過ぎに自宅を出ています。他の人はバス通学や自転車通学する人が多いです。

私がなぜ知念高校に決めたかという、勉強もしっかり学ぶことができ、その中で行事もたくさんあり、部活動も盛んで、年々進学率が上がっていたからです。最初は那覇高校という選択肢もありましたが、両親が知念高校出身ということもあって知念高校の良さを聞いたり、自分で調べたりしている中で、やっぱり知念高校がいいと決めました。そのため両親の意見と異なることもありませんでした。

私が受験の時にやっていた勉強法は、問題集や過去問を1回解いて、自分が苦手、得意とする分野を把握して、苦手な分野を集中的に勉強していました。そして、1回理解したら終わりじゃなくて、そこを何回も勉強して、最後に全部通して理解したら次の分野に進んでいました。でも、長時間やりすぎても、私の場合は集中が切れて逆に頭に入らなくなってくるので、時間を決めてやったり、この問題集5ページをしっかりとマスターできたら自分がやりたいことをやる、というふうに取り組んでいました。つらいなと思ったときは音楽を聴いたりしました。

行きたい高校が決まっている人と決まっていな人がいると思いますが、決まっていな生徒は、積極的に自分で調べたり、自分が少しでも興味がある高校に体験入学に行ってみた方が、自分が行きたい高校が見つかると思います。

高校に入学する前と違っていたイメージは、楽しいとか自由というイメージはあっていただけ、みんな頑張ってるイメージで勉強して入学してきているし、習う教科も増えるので、テストや勉強が大変なことです。

私が高校に入学して思ったことは、特に英語は中1～3年で習った文法や英単語を身につけておかないと高校の授業にもつながっているから、一番やっておけばよかったと思った教科です。推薦で進学先が内定した人は、高校に入るとすぐに実力テストがあるので、高校側から出された課題や、1年～3年の総復習はしっかりやっておいた方がいいと思います。そこで一般入試で受験する人との差が大きくなってしまいます。

私も中学生の頃は、受験に受かるか心配で、点数が上がらないときもあって不安だったけど、自分がやった分は絶対に成果が出るので頑張ってください。

西原高校（普通科文理コース）1年 屋我 ^{あいな} 愛菜 先輩

西原高校は、健康科学コース、文理コース、特別進学コースの3つに分かれています。1・2組が健康科学コース、3組～6組が文理コース、7・8組が特別進学コースになっています。ちなみに健康科学コースは3年間クラス替えがありません。

次に学科の特徴を紹介します。まず健康科学コースは、他のコースにある「英語表現」の授業の代わりに「生涯スポーツ」というものが入ってきます。「生涯スポーツ」は、自分が入っている部活動に取り組む時間です。体育の授業とは別の授業になっています。西原高校の強化指定種目は男女バレー、女子バスケット、サッカー、野球となっています。また、健康科学コースは、独自の活動が年に1度行われます。1年生はPAプログラム、2年生は野外実習、3年生はマリンスクール実習があります。

文理コースは、国語、数学、科学、世界史、コミュニケーション英語、英語表現の6教科、プラス選択科目を選びます。英語が2つに分かれていて、テストも6教科になります。選択科目は1年生で音楽、美術、書道の3つから1つを選択できます。この選択は2年生まで変わりません。2年生で中国語、数学B、沖縄の歴史から1つ、地学、物理から1つ選ぶことができます。また、文理コースも独自の活動があり、大学などの上級学校を訪問できます。

特別進学コースは、健康科学コース、文理コースと違って勉強中心の学科になっています。毎週ではありませんが、月に何回か、土曜日の出校日があります。また、早朝講座もあり、毎日0校時から始まります。中間テスト、期末テストは健康科学コース、文理コースより少し難しめに作られているそうです。特別進学コースの独自の活動は、夏期講座、模擬試験、琉球大学オープンキャンパスへの参加などです。

私の通学の方法は、8時過ぎに自宅を出て、毎日親に送迎してもらっています。自宅からは30分ほどかかります。バス通学の方法は、46番か33番のバスで行けます。混みやすい時間なので、早めに出ることをおすすめします。

私の勉強方法は、塾では細かい単元や応用問題をといて、家では過去問をといて間違えたところを見直していました。勉強するやる気がでなかったときは、30分くらい単語を暗記したりしました。

